

第 5 回 関東甲信地域県支部・建設部会 意見交換会 議事録

■開催日時：令和 4 年 9 月 29 日（木）15:00～17:15

■開催場所：機械振興会館 6-66 会議室

■出席者

- （県支部）手島茨城県支部幹事、亀田栃木県支部幹事、小柳埼玉県支部幹事、
岡部千葉県支部幹事、小原神奈川県支部副支部長、山浦長野県支部幹事
（本部）中川制度検討委員長・資格活用副委員長
（建設部会）増野部会長、黒崎副部会長、松岡幹事長、樋口副幹事長、平川副幹事長、
榎本部会研修委員長、藤原部会広報委員長

1. 開会挨拶

1) 増野部会長

- ・意見交換会は今回が 5 回目の開催で定常化しつつある。
- ・先月茨城県支部と合同で現場見学会を開催した。研修関係以外にもいろいろな連携が可能と思える。
- ・部会として資格制度、資格活用にも力を入れ取り組んでいる。
- ・本日は、活発な議論をお願いしたい。

2) 参加者挨拶

- ・新規出席者の紹介、挨拶が行われた。

2. 建設部会活動報告

(1) 前回議事録の確認【資料-1】

- ・事前確認済みのため、意見等なく承認された。

(2) 建設部会の運営方針（増野部会長）【資料-2】

- ・4 つの運営方針及びその活動状況について説明が行われた。
- ・地域本部と県支部との連携に対し、県支部からの意見や要望があれば提案いただきたい旨の依頼があった。

(3) 令和 3 年度建設部会活動報告（松岡幹事長、榎本部会研修委員長）【資料-3】

- ・日本技術士会の概要、建設部会の組織構成や活動状況について説明が行われた。

(4) 技術士制度検討委員会の報告（中川制度検討委員長）【資料-4】

- ・文部科学省への説明資料（試験制度等にかかわる部分は非開示）をもとに、以下の説明が行われた。
- ・技術者教育の遅れに対し IPD 活動の充実を図りたいが、アンケート結果では「ほぼ知らない」と認知されていない状況であった。IPD 懇談会（仮称）を設置するとともに IPD ヒアリングを実施し検討を進める予定としている。
- ・技術士総合技術監理部門のアンケートを HP で行っており、協力をお願いしたい。
- ・技術士 CPD 活動については、文部科学省への年 1 回の報告が義務付けられている。地域本部・

県支部で説明会を 19 回行った。

- ・リーフレットを作成し月刊 PE（10 月号）とあわせ配布を予定している。
- ・令和 5 年の年明けに技術士 CPD 登録・記載申請キャンペーンを行う予定としており、県支部からも PR をお願いしたい。
- ・新 CPD 制度の推進と定着は今期日本技術士会最大のミッションであり、次回のキャンペーンで登録者数 1 万人を目指している。

(5) 技術士資格活用委員会の報告（中川資格活用副委員長）【資料-5】

- ・委員会内に設けた 3 チームの活動状況、国交省との協議の概要について説明が行われた。

(6) 質疑応答・意見交換

（茨城県支部）IPD と CPD の紐づけはどのようなになるのか。

→（中川委員長）IPD が技術士になる前のもので、CPD は技術士になってから実施するもの。今後 CPD に於いてメンターの役割が重視されると考えている。

（増野部会長）IPD での具体的な事例を紹介いただきたい。

→（松岡幹事長）自社（建設技術研究所）での取り組みを紹介。

（長野県支部）IPD は仕組みとして行うのか。

→（中川委員長）今後検討することになる。研修委員会でガイドブックを作成し HP で開示しており参考にしていきたい。

（埼玉県支部）JABEE との関係は。

→（中川委員長）JABEE は GA を評価・認定するものであり、その先の技術士を目指すステップに IPD があり、置き換わるものではない。

（茨城県支部）CPD には、ボランティアや社会貢献の活動がないため、設けてもらいたい。

→（中川委員長）次回の改定に向け意見徴集を行う予定のため、意見として提出していただきたい。

（中川委員長）県支部での CPD の登録・申請の状況を教えて欲しい。

→（栃木県支部）高齢の方も多く登録手続きに手間取っている。登録者は CPD 行事参加者の 2 割程度とあまり進んでいない。

→（茨城県支部）日本技術士会以外で登録する人が多い。

→（埼玉県支部）次回役員会で登録促進を話題として取り上げ PR してみる。登録が面倒という意識もある。

3. 建設部会への要望

(1) 県支部（建設）の活動内容と課題の共有および建設部会への要望等【資料-6】

- ・各県支部より、事前アンケートの回答について説明が行われた。

1) 茨城県支部

- ・支部に建設部会はないが、本部・建設部会の幹事会や講演会を集合して聴講している。
- ・8 月に建設部会と合同で見学会・講演会を開催し有意義であった。年 1～2 回開催することで交流や相互理解がさらに深まる。
- ・4 月に県支部単独で合格者祝賀会を開催し入会を促している。

2) 栃木県支部

- ・支部に建設部会はないが、防災に係る活動が多い。
- ・本部・建設部会との定期的な情報交換は必要であり、年1回程度の研修会や見学会の共催を企画してもらいたい。

3) 埼玉県支部

- ・支部に建設部会はないが、防災支援グループを設け発災前の準備等での対応を行っている。
- ・NPO 彩の国技術センターでは県内自治体発注工事の工事監査業務を実施している。
- ・意見交換会が定例化され、建設部会や他県支部の状況が把握でき、活動の参考になっている。
- ・群馬県支部との合同見学会を企画したがコロナ渦感染拡大により中止となった。
- ・現場見学会の企画はできるが、講演会の企画に苦慮している。

4) 千葉県支部

- ・支部に建設部会はないが、千葉市と協定を締結している防災支援委員会、技術者教育支援委員会などでの活動を行っており、私立高校の理科教育にも取り組み始めている。
- ・意見交換会が定例化されたことは良いことで、建設部会での資料を必要に応じ県支部内で共有していきたい。
- ・一方で、技術士会の一般の方々への認知度が低く、PRが必要と感じている。

5) 神奈川県支部

- ・支部に建設部会はないが、防災支援小委員会、神奈川県建設工事紛争審査委員会への委員派遣、県内自治体技術職への技術士ガイダンスなどを実施している。
- ・建設部会主催の CPD 講座が WEB 開催となり支部会員が参加しやすくなっており、継続を要望。
- ・技術士の地位向上には技術士の取得者の増加を基本と考え、自治体に加え大学へのガイダンスを行っている。

6) 長野県支部

- ・県支部では建設部門の会員は多いが地域が広く建設部会を設けて活動することは難しい。
- ・意見交換会の開催、建設部会からの情報提供は継続していただきたい。
- ・令和2年度に中止となった建設部会との共催の見学会等を実現したい。
- ・11月に災害現場の見学会を企画中。

(2) 県支部の課題・要望等に関する意見交換

1) 他の部会との連携や他の機関への取り組みについて

- ・各県支部での建設部会以外の部会等との連携の状況について確認を行った。
- ・長野県支部から、関東甲信地域の交流と意見交換のため支部長会議の開催はされているのか。
→支部長会議の定期開催要望に対し、年1回の開催を予定していることを回答した。あわせて、関東の県支部をまとめ関東地域本部として組織化することも本部で話題に挙がっていることを情報提供した。
- ・茨城県支部では、建設部門特に建コン関係の会員が少なく、CPD 行事を契機に建コン関係者との接点を持ちたいため、建設部会から支援してもらいたいとの要望があった。
→栃木県支部から、県支部の協賛団体を募り建コン企業にも協賛してもらっており、協賛団体向けに講演会等を企画し、建設部門として顔が見える繋がりを作ったとの紹介があった。
- ・長野県支部では高専でガイダンスを実施しているが、学校への働きかけで参考となる取り組み

があれば紹介してもらいたいとの要望があった。

→神奈川県支部では技術士補受験講座を行っていることの紹介があった。在学中に合格すると就職が有利となり、また同窓会から受験料等を補助する学校もあることの紹介があった。

2) 資格制度の活用等について

- ・茨城県支部より、CPD 活動に対する補助の申請が面倒であり交付金のような仕組みとならないかの確認があった。

→この件は企画委員会で取り扱う事案であることを説明した。

- ・部会長より、技術士の知名度向上に受けビデオを作成しており、全国大会でも使用される予定であることが紹介された。
- ・部会研修員会では、非会員の WEB 受講について検討中であること、また CPD 参加時に発行している参加表は、今後は参加証明書に変更されるであろうとの説明があった。

4. 課題・要望等の総括（増野部会長）

- ・技術士の制度検討・資格活用は、建設部会として積極的に動いていきたい。CPD の登録など県支部としても PR し支援いただきたい。
- ・資格活用では、大学や高専との連携など県支部での活動も参考に展開していきたい。
- ・意見交換会の開催は有効であるため、今後も継続し実施する。
- ・建設部会と県支部の連携に加え、県支部相互での連携についても進めていただきたい。

5. 閉会挨拶（黒崎副部会長）

- ・今回の意見交換会是对面での開催で議論を深めることができた。今後も定期的を開催していきたい。
- ・CPD 行事については WEB での開催も有効であることが確認できた。
- ・建設では、現場との繋がりも重要であり、見学会の開催も有効と考えている。
- ・建設部会と県支部、県支部相互の連携について、今後の議論を深めていきたい。

(以 上)